

令和４年度 北海道開発局事前評価技術検討会 議事概要

1 日 時 : 令和４年６月２８日（火）15:00～17:00

2 場 所 等 : 網走開発建設部 会議室

3 対象地区 : 国営かんがい排水事業 「風連多寄地区」
国営かんがい排水事業 「笹川地区」
国営かんがい排水事業 「新更別地区」
国営かんがい排水事業 「網走川豊住地区」

4 委 員 : 北室 かず子 フリーライター・編集者
耕野 拓一 帯広畜産大学 教授
山本 忠男 北海道大学大学院農学研究院 准教授
義平 大樹 酪農学園大学 教授

5 議 事

北海道開発局事前評価技術検討会を開催し、令和５年度事業着手要求地区である国営かんがい排水事業「風連多寄地区」、同「笹川地区」、同「新更別地区」及び同「網走川豊住地区」の事前評価に当たって、評価資料（案）の内容、判断根拠等について、各委員から意見を求めた。

質疑応答の概要は以下のとおり。

[１] 国営かんがい排水事業「風連多寄地区」

（委 員）かぼちゃの面積を拡大する計画であるが、今後の状況に応じて増加の程度等は変わりうるのか。

（開発局）排水改良に伴いかぼちゃの作付けを拡大したいという、現時点での地域の意向を踏まえて設定している。今後の情勢等により実際の作付けは変わるかもしれないが、高収益作物の作付けを増やしていきたい意向である。

[２] 国営かんがい排水事業「笹川地区」

（委 員）降水量の測定は観測地点でのものあり、最近は局地的に大雨が降ることも多いため、本地区内では測定値より強い降雨があった可能性もある。1/10 確率では無く、もっと余裕を持った整備でも良いのではないか。

（開発局）市街地に影響を与える場所等では、農業用排水路としても例えば 1/20 確率に対応する規模を採用することは可能であるが、本地区は農村地域であることから従来どおりの整備基準である 1/10 確率規模としている。

[３] 国営かんがい排水事業「新更別地区」

（委 員）計画ではいんげんや小豆の作付面積が拡大される予定であるが、輪作体系は問題ないか。

（開発局）現在は小麦が過作傾向であるが、本事業実施による湛水被害の解消を契機として高収益作物であるいんげん・小豆を拡大し、適正な４年輪作を確立していくこととしている。

(委員) 補助金の対象外であるいんげんや小豆の供給基地となるこの地域は貴重と思うが、生産額としては園芸作物に比べて低くなるため、高収益作物に関するチェックリストではB判定となってしまうのが残念な印象。

(開発局) 現在は生産額の増加で判定をしているところだが、来年度からは生産額もしくは作付面積の増加率で判定をしていくことになる。

[4] 国営かんがい排水事業「網走川豊住地区」

(委員) 現地調査により、現在の排水機場の管理は管理人の経験による操作等で適切に管理されていることが理解できた。排水機場の更新後も、従来の管理人が管理を行うことになるのか。遠隔監視等、管理の省力化となる設備を設置する予定か。

(開発局) 現在の管理人が管理の操作を行うことを予定している。また、遠隔監視システムの導入を予定している。

[5] 各地区共通事項

(委員) 近年、営農資材や燃料等の価格上昇により営農経費が増加しているが、営農経費による感度分析は行っているのか。

(開発局) 感度分析は、所定の場合において、事業費及び作物の生産増減量に対してのみ行っているところ。

6 全体意見

事前評価の評価項目である事業の必要性、効率性、有効性、優先性、公平性及びその他評価項目は、適切に評価されている。

検討の対象となったいずれの地区とも、早期に事業を実施する必要性が認められる。

国民が北海道農業に求めるのは、安全・安心な国産農産物の安定供給である。北海道農業が担っている国民の命の土台を支える使命を一番大事にしていきたい。

以上